

第4章 現状と課題

1 施設の概要について

(1) 資料の収蔵・展示施設について

施設の名称・所在地：武雄市図書館・歴史資料館（佐賀県武雄市武雄町大字武雄 5304 番地 1）

施設の概要

○本館

敷地面積	10,160 m ²																		
建築面積	3,352 m ²																		
建築延床面積	3,807.3 m ²																		
構 造	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・木造）一部地上2階																		
開館日	平成12（2000）年10月1日 大規模改修 平成25（2013）年4月1日 (工事に伴う閉館：平成24年11月1日～平成25年3月31日)																		
資料館エリア の概要	<p>〔展示施設〕</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">蘭学・企画展示室</td> </tr> <tr> <td>企画展示室</td> <td>162.8 m² 独立防火区画 構造：鉄筋コンクリート造、一部内壁・木クロス貼 展示ケース：木造・内壁クロス貼 ガラス引き戸（28 m²） ガラス片開き戸〔セミエアタイト〕(10 m²)</td> </tr> <tr> <td>メディアホール</td> <td>142.8 m² 付属倉庫 20.0 m² 構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・木造）</td> </tr> </table> <p>こども歴史コーナー(平成29年度に設置) 開架スペース内造付展示ケース 9.8 m²</p> <p>※常設展示室「蘭学館」(252 m²) は平成24年10月31日で閉鎖</p> <p>〔収蔵施設〕</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">構造：鉄筋コンクリート造、独立防火区画、一部耐震壁</td> </tr> <tr> <td>特別収蔵庫</td> <td>90.2 m² 内部板張り 24時間温湿度管理</td> </tr> <tr> <td>一般収蔵庫</td> <td>2層 延床面積：253.7 m² 24時間空調</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td>通路 30 m² 燻蒸室 13.2 m²</td> </tr> </table> <p>〔その他〕</p> <table border="1"> <tr> <td>事 務 所</td> <td>22 m²</td> </tr> <tr> <td>作 業 室</td> <td>15 m²</td> </tr> </table>	蘭学・企画展示室		企画展示室	162.8 m ² 独立防火区画 構造：鉄筋コンクリート造、一部内壁・木クロス貼 展示ケース：木造・内壁クロス貼 ガラス引き戸（28 m ² ） ガラス片開き戸〔セミエアタイト〕(10 m ²)	メディアホール	142.8 m ² 付属倉庫 20.0 m ² 構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・木造）	構造：鉄筋コンクリート造、独立防火区画、一部耐震壁		特別収蔵庫	90.2 m ² 内部板張り 24時間温湿度管理	一般収蔵庫	2層 延床面積：253.7 m ² 24時間空調	そ の 他	通路 30 m ² 燻蒸室 13.2 m ²	事 務 所	22 m ²	作 業 室	15 m ²
蘭学・企画展示室																			
企画展示室	162.8 m ² 独立防火区画 構造：鉄筋コンクリート造、一部内壁・木クロス貼 展示ケース：木造・内壁クロス貼 ガラス引き戸（28 m ² ） ガラス片開き戸〔セミエアタイト〕(10 m ²)																		
メディアホール	142.8 m ² 付属倉庫 20.0 m ² 構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・木造）																		
構造：鉄筋コンクリート造、独立防火区画、一部耐震壁																			
特別収蔵庫	90.2 m ² 内部板張り 24時間温湿度管理																		
一般収蔵庫	2層 延床面積：253.7 m ² 24時間空調																		
そ の 他	通路 30 m ² 燻蒸室 13.2 m ²																		
事 務 所	22 m ²																		
作 業 室	15 m ²																		

○こども図書館（歴史資料館関連施設なし）

敷地面積：1,439 m ²	建築面積：614 m ²	建築延面積：691 m ²
構 造	鉄筋コンクリート造（一部木造）地上2階	
開館日	平成29年10月1日	

武雄市図書館・歴史資料館本館 建築延床面積

3,807.3 m²

うち占有面積 歴史資料館エリア

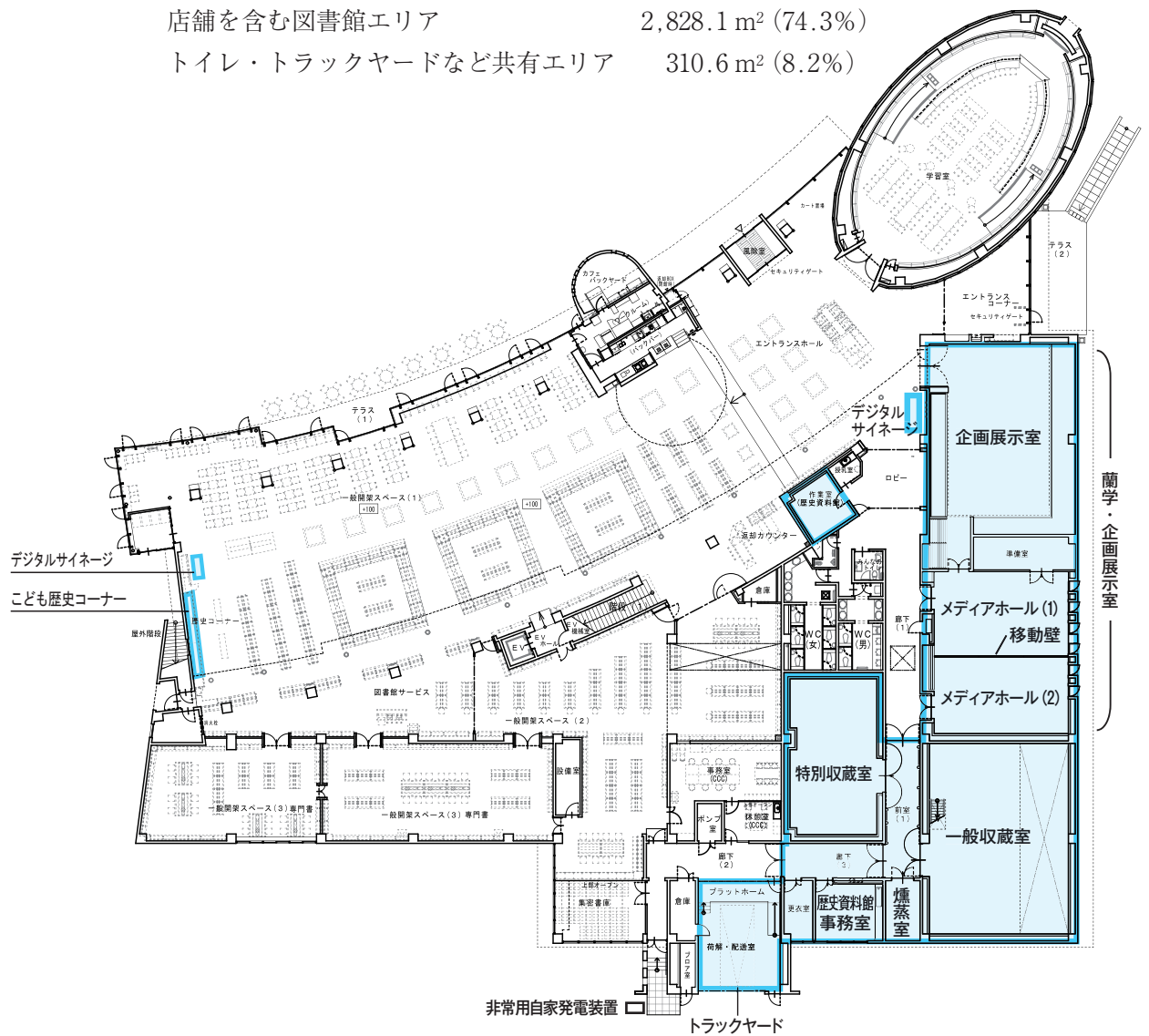
668.6 m² (17.5%)

店舗を含む図書館エリア

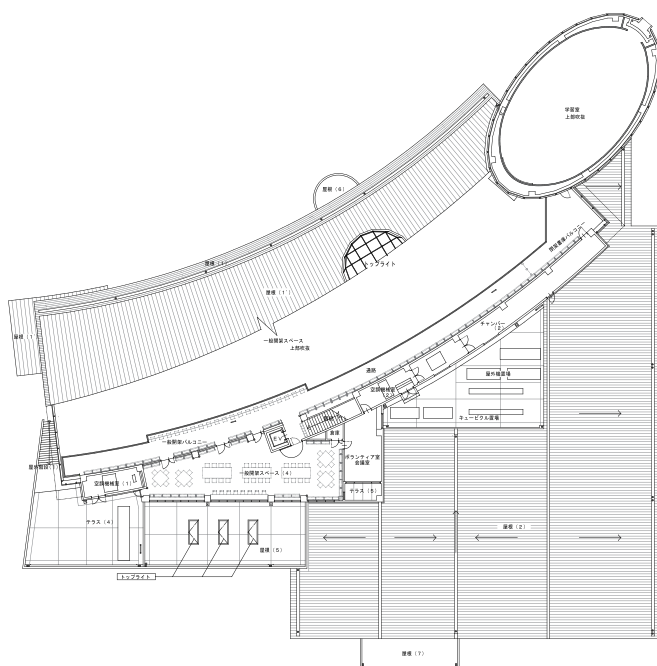
2,828.1 m² (74.3%)

トイレ・トラックヤードなど共有エリア

310.6 m² (8.2%)



武雄市図書館・歴史資料館本館
1階・2階平面図



【館内図】

(2) 施設の特徴

○ 全体的な特徴

武雄市は平成の大合併前、平成元（1989）年度に「第三次武雄市総合計画」を策定した。これに基づき平成6年度に策定された「市民文化の森構想」で謳われた「文化の薫るまちづくり」の実現に向けて、武雄市図書館・歴史資料館が整備された。武雄市固有の歴史的遺産・風土の保存と活用、未来への伝承を行う場であること、市民参加の様々な活動の拠点であること、図書館と歴史資料館の相乗効果を活かした複合施設であることなどを目指し、平成12年10月に開館した。

開館から12年後の平成24年11月より翌年3月にかけて、図書館への指定管理者制度導入を前提に、一般開架スペースの拡大、館内に書店やカフェを設けるなど、施設の魅力を高める大規模改修を実施した。平成25年4月のリニューアルオープン後は、市民のための図書館として休館日を設けず、館全体は午前9時から午後9時まで開館している。

令和2（2020）年に開館から20年を迎え、市民のみならず多くの人に親しまれる施設となっている。大規模改修以降、書店やカフェの併設により観光客を含めた来館者は増加し、平成30年度には、こども図書館とあわせて、年間来館者が100万人を超えた。観光スポットの1つとして観光ウォーキングルートに組み込まれていることなどから、中国・韓国を中心とした外国人の来館者も増加している。ただし、令和2年より新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、来館者数は減少している。

書店やカフェは図書館エリア・歴史資料館エリアと同一フロア内にあり、飲食物を含む物販が行われている。飲み物は蓋つきのものであれば館内で自由に飲むことができるが、食事はカフェ内に限られる。

歴史資料館エリアの蘭学・企画展示室では、全ての飲食物の持ち込みを禁止しており、各入口などに目立つように表示している。さらに、企画展期間中は展示室内に常時人員を配置し、入場者へ協力を呼びかけている。また図書館エリアにおいても、佐賀県や武雄市と関連がある書籍、特に発行年が古い、小部数発行などの貴重な書籍を閲覧する郷土資料の閲覧席については他のエリアと区別して、飲食禁止を徹底するために厳格な管理を行う対象として位置づけている。

○ 歴史資料館エリアの特徴

武雄市図書館・歴史資料館は複合施設であり、さらにワンフロアであることから、図書館の利用を目的とした来館者であっても歴史資料館の展示室に誘導しやすい構造となっている。

開館当初には歴史資料館エリアとして、蘭学資料の展示を中心とした常設展示室「蘭学館」（252 m²）、テーマを定めた展示替えを行う企画展示室（162.8 m²）、年表や動画で通史を紹介する情報コーナー（34 m²）が設けられていた。

常設展示室・情報コーナーについては展示が固定的で、市民の利用が低迷していたことから、平成24～25年の改修時、常設展示室は現代の文化を発信する場として、情報コーナーは来館者の憩いの場として活用されることとなり、展示スペースは約45%減少した。

この改修以降は、企画展示室及び隣接するメディアホール（多目的スペース）をあわせ、「蘭学・企画展示室」とした。床面積は305.6 m²あり、移動壁を用いることで企画展の規模によって構成を変更することができる。

その後平成29年に、図書の閲覧スペースの拡充を求める市民のニーズに応えるため、かつての常設展示室はイベントの開催も可能な閲覧スペース、シェアルームとして再改装を行った。

また、図書館エリアの一般開架スペース拡大のために、事務室の縮小など収蔵施設を除く図書館及び歴史資料館のバックヤードスペースは、3分の1程度に減少した。

平成29年10月、武雄市図書館・歴史資料館に隣接して武雄市こども図書館が開館するのにあわせて子ども用図書コーナーを一部改修し、子どもたちに歴史を紹介するためのスペースとして、新たに歴史展示ケース(9.8m²)を設置した。照度や温湿度の設定や、歴史資料館の開館時間に合わせた展示調節ができないことから、環境の影響を受けにくいやきものなどの資料やパネルを用いて、テーマを定めた展示を行っている。

武雄市図書館・歴史資料館は本章に述べるとおり、文化財の保存と管理、公開を安全かつ適切に行っていく上で、収蔵庫のスペース、資料動線、防火防犯対策に関する課題がある。また、「武雄鍋島家洋学関係資料」の常設展示が可能なスペースがないこと及び現状の展示設備の温湿度調整などについても課題を残す。中・長期的な計画のなかで、大規模改修、建替などを視野に入れながら、課題解決の方策を探っていく必要がある。

(3) 施設周辺の環境

武雄市図書館・歴史資料館の西側には、武雄市のランドマークである御船山(標高207m)がそびえる。その東麓には、1000年余の歴史をもち、佐賀県内最古の古文書「四至実検状」を含む「武雄神社文書」(重要文化財)を有する武雄神社が鎮座している。神社の御神木「武雄の大楠」(武雄市天然記念物)は武雄が誇る3本の大楠のうちの1つであり、幹回り20m、樹高30m、樹齢3000年ともいわれる威容で、人気の観光スポットとなっている。館の北側には流鏝馬道がある。武雄神社の秋祭りである武雄供日では、10月23日に流鏝馬が奉納される。この行事は、平家追討の祈願を行った武雄神社に深謝した源頼朝が送った使者が武雄領主と共に武雄神社に参詣し、神事が終わったあと流鏝馬を奉納して神慮を慰めたことから始まったとされる。

御船山北麓に位置する佐賀県立武雄高等学校は、武雄後藤家の居城であった塚崎城(武雄城)址に建てられており、山中には現在も本丸の石垣などの遺構が残る。

また、館の北西約150mに位置する武雄市文化会館は、慶応年間(1865~1868)に築造された武雄鍋島家の別邸跡である。庭園などに当時の面影を残す一方、ホール、会議室、集会室、調理室、美術室、工作実習室など、幅広い活動に対応した複合施設として、地域文化の育成拠点の1つとなっている。館北側の小丘陵には、3本の大楠の1つである「塚崎の大楠」(武雄市天然記念物)があり、さらに北へ行けば(館より徒歩20分程度)「肥前国風土記」にも記された武雄温泉、東京駅などを設計した唐津出身の建築家辰野金吾の設計による武雄温泉新館及び楼門(重要文化財)も立地している。

御船山南西麓には、弘化年間(1844~1848)に築造された「萩の尾園」の池泉庭園を基礎として発展し、国の登録文化財(記念物)であり佐賀県名勝の「旧武雄邑主鍋島氏別邸庭園(御船山楽園)」がある。南東麓側には、世界的建築家フランク・ロイド・ライトの弟子遠藤新が設計した国際交流、研修・会議施設で、国の登録文化財(有形文化財)の「如蘭塾舎及び寄宿舍」「如蘭塾迎賓館」が立地、その付属施設として整備され、現在は市民の憩いの場や観光名所となっている御船が丘梅林が広がっている。

このように、文化・学習・交流の中核施設が集積し、隣接して豊かな自然環境と歴史的景観に恵まれている一帯は、市民の心のふるさととなり、武雄の良さを再発見できる場であるといえる。

2 資料の保存・管理について

(1) 資料の管理など

「武雄鍋島家洋学関係資料」は、第3章の「3 重要文化財指定までの経緯」で述べた4冊の武雄鍋島家資料の管理目録に大半が掲載され、収蔵庫内における収納などは、この管理目録を元に整理している。

しかしながら、画像を含めた資料の概要、現状・修理履歴・展示履歴などを俯瞰できる台帳はできていない。

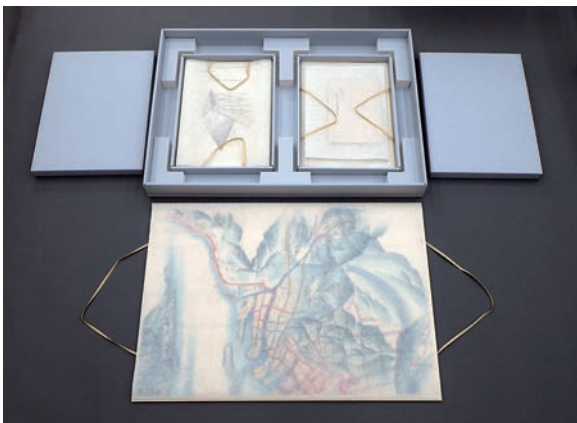
武雄鍋島家資料は、大砲や石臼など法量や重量などの関係で一般収蔵庫に収蔵しているものを除いて、特別収蔵庫に収蔵している。

資料のうち、文書・典籍類、写真、標本類については、目録の作成時に管理番号を記したラベルを資料に貼付の上、管理番号・資料名などを記した封筒に収め、コンテナに縦置き状態で収納している。この時の封筒は酸性紙であったため、平成元年、資料の修理が始められた後に、中性紙の封筒に入れ替えた。平成27年以降の保存修理事業に際しては、資料に貼付されたラベルは剥がして別置している。

器物類は、管理番号を記した荷札を付け、サイズに応じてコンテナに収納したものと棚に直置きしているものがある。

図面・絵図類は、修理が済んだものは収納箱を作成し、箱に管理番号を記している。修理前のものについては、中性紙の封筒に入れ、コンテナに収納している。

洋書類は、1冊ごとに専用の中性紙箱を作成して収納し、箱に管理番号を記している。棚の一部をスライド本棚形状に改造し、立てた状態で保管している。多くの資料の扉頁裏などに、武雄市に寄贈される前に貼付された青焼きのタイトル（訳文）が残っている。



令和2年度保存修理

「5. 絵図・地図類」13～24

薩州鹿兒島見取絵図 収納箱



特別収蔵庫内 資料収納状況

※写真中央の棚下段に、薩州鹿兒島見取絵図
収納箱がある

(2) 保存修理事業

文化財修理の目的は文化財を将来に伝えることである。そのためには当該文化財の文化財価値を体现する品質・形状を見極め、文化財を構成する素材の物性についての理解を必要とし、今後の保存に万全を期すことが求められる。同時に、劣化、損傷状況と要因を認識し、その箇所を極力取り除くことが必要になる。

「武雄鍋島家洋学関係資料」は主として紙・絹・木など極めて脆弱な素材にて作成されていることから、不適切な材料や工程による修理がなされれば、その行為は一転して文化財破壊となり、とりかえしのつかないこととなる。現状を極力維持すること、将来に再修理できることなどを念頭に極めて慎重に安心・安全な材料と工法を検討するとともに、極めて高度な修理技術により施工されなければならない。

以上の点から、文化財修理には、文化財修理倫理をもつことを前提とし、対象となる国指定文化財の文化財分野に即した修理に関する豊富な経験と実績を有するものによる施工が求められる。

「武雄鍋島家洋学関係資料」は現在地に収蔵して以降、資料の劣化を招く温湿度、有害光線、有害生物、有害物質などに関しては、概ね良好な保存環境におかれているが、それ以前の収蔵環境下において、大きな損傷を受けているものも少なくない。

平成元（1989）年度より、武雄鍋島家資料の修理を実施してきた。平成26年以降は、より適切な修理を施すため、文化財保護法第34条の2及び第35条、第43条の2に則り国庫補助と県費補助を受け、平成27年～令和6（2024）年の10年計画で、文化庁などの指導を受けながら、保存修理事業を進めている。

現在行っている保存修理事業のうち、文書・記録類と和書・訳書類の一部については、平成27年度以降の作業により、資料の傷み具合でランク分けをし、展示などの活用機会の多寡などを加味して対象とする資料を定めている。

文書・記録類については、専門家による状態確認と同時に記載内容の確認を進めてきた。砲術の導入などに関連する軍事関係の文書、戊辰戦争関連の文書は、85%程度の確認作業が終了している。指定外の武雄鍋島家資料の確認作業も、追加指定を視野に入れて進めているところである。

絵図・地図類については、順次の状態確認調査は実施していない。ただし活用頻度が特に高いと判断した一部については、保存修理事業の対象としてきた。その際、担当者の目視では確認ができなかった膠の劣化による顔料の剥落などの問題が指摘されている。

洋書類は、佐賀県立武雄高等学校図書館に保管中の平成3年9月に襲来した台風17号・19号による漏水などのため、39冊の原装が失われ仮表紙が施されている。武雄市に寄託された平成10年度の修理の際、表紙カバーとして貼付されていた塩ビフィルムを除くとともに、フィルム貼付に用いられた粘着物質、カビを除去。製本構造が傷んでいるものや綴じが外れている資料はいったん解体し、背や背貼りが傷んでいるものを修理したうえで綴じ直しを行った。また、丁のヤブレを同色系統の和紙を用いて補修し、表紙の破損についても修理を行い、個別の中性紙保存箱も同時に制作した。未指定時における応急処置として実施されたものだが、国指定文化財になった現段階ではより適切な修理が求められる。また本紙に水濡れ痕などがある資料、前回の修理から時間が経過していることで装丁の皮革部劣化が見られる資料がある。

一方で、「武雄鍋島家洋学関係資料」の特徴をなすといえる、器物類（ガラス・革製品など）及び標本類については、分野、素材・材質、用途などが多岐にわたり、文書類に比べて全国的にも修理実績が少ない。適切な修理方法、実績がある修理技術者の選定など多くの課題がある。このため、修理

に至る詳しい調査を実施できておらず、修理が急がれると推測される資料もあるが、個々の資料に対する最適な修理方法が明確になっていない。

【保存修理事業の対象資料】

「3和書・訳書類」14 規矩元法町見目録聞書 【平成28年度】



修理前



修理後

「1文書・記録類」745 書類（蘭砲術稽古人数）【平成30年度】



修理前



修理後

「6絵図・地図類」14 薩州鹿兒島見取絵図／鑄製方見取略図 【令和元年度】



修理前



修理後

「武雄鍋島家洋学関係資料」に係る指定以前の保存修理実績一覧

年 度	資 料 名	指定番号	管理番号 〔武雄鍋島文書目録〕 〔武雄鍋島家歴史資料目録〕 による)	施工業者
平成 1～2年	大砲設計図 65点	図面類 1～37、59～86	設計図 1～65(後編)	株式会社岡墨光堂 (京都市)
平成2年	(仮) 蒸気機関の図	図面類 99	続編 二-304	株式会社岡墨光堂
	船関係	図面類 100、101	続編 二-307	
	大砲関係図面	図面類 102	続編 二-316-1	
	大砲関係図面	図面類 103	続編 二-316-2	
	大砲関係図面	図面類 104	続編 二-316-3	
	大砲関係図面	図面類 105	続編 二-316-4	
	大砲関係図面	図面類 106	続編 二-316-5	
	水車の図面 (プレットモーレン)	図面類 159	続編 二-317	
平成6年	練率訓語 8冊	和書・訳書 216～223	前編 四-3-10	坂田墨珠堂 (滋賀県大津市)
	モルチール業大略 4紙	文書・記録類 89～91	文書 I-120	
	大砲切形六門分外 うち17枚	図面類 41～58	文書 I-121	
	大砲切形入 10枚と1綴のうち色絵1枚		文書 I-121-2	
	ホイッスル筒台絵図他 27枚のうち26枚		文書 I-122	
ホイッスル筒台絵図他絵図 全22枚+蘭文説明1綴		文書 I-122-2		
平成8年	長崎御仕与ニ付而仰出	文書・記録類 18	文書 I-47	坂田墨珠堂
	(仮) 茂昌長崎滞在記録	文書・記録類 790	文書 I-56	
	(仮) 蘭製御筒	文書・記録類 855	文書 I-65	
	書状	文書・記録類 1283	文書 I-66	
	ホイッスル並台絵図	図面類 38	文書 I-101	
	當流鉄砲打覚書	文書・記録類 713	文書 I-127	
	文化七年九月五日於田上荻野流鉄砲	文書・記録類 715	文書 I-128	
	荻野流砲術町打細工留	文書・記録類 869	文書 I-129	
(仮) 砲術書写	文書・記録類 798	文書 I-138		
平成9年	荻野流孟夜相図打極秘巻 1冊	和書・訳書類 261	前編 四-1-106	坂田墨珠堂
	御褒美帳 1冊	文書・記録類 725	文書 F-11	
	(仮) 砲術書写 1冊	文書・記録類 858	文書 I-73	
	長崎絵図	絵図・地図類 2	文書 O-32	
	長崎伊王島の図	絵図・地図類 3	文書 O-33	
	長崎神之島の図	絵図・地図類 4	文書 O-34	
東西半球図	絵図・地図類 7	文書 O-42		
平成10年	牛痘発蒙	和書・訳書類 104	前編 三-2-24	坂田墨珠堂
	矢勃兎杜経験方	和書・訳書類 106	前編 三-2-31	
	連邦志略(2冊)	和書・訳書類 128、129	前編 二-4-1	
	海外新拾遺	和書・訳書類 125	前編 二-4-9	
	銃陣詳節	和書・訳書類 194	文書 I-71	
	散花錦囊	和書・訳書類 71	前編 三-2-25	
	覚	文書・記録類 129	文書 I-168	
	(仮) 覚(包みあり)	文書・記録類 87	文書 I-76	
	玉葉放出奉願候口上覚(包有)付属品1枚	文書・記録類 170	文書 I-149	
	(仮) 幕末出勢帳	文書・記録類 591、667	文書 I-217	
	武雄の蘭書 138冊	洋書類 1～133 和書・訳書類 1、4、6、7、188	武雄の蘭書 1～138(後編)	有限会社キャッツ (東京都文京区 現在は廃業)

年 度	資 料 名	指定番号	管理番号 （「武雄鍋島文書目録」 「武雄鍋島家歴史資料目録」 による）	施工業者
平成11年	植物図絵	文書・記録類 885	文書 J-6-3	武芳堂（佐賀市 現在は廃業）
	画帖	文書・記録類 886	続編 二-78	
	諸物製造書目録	和書・訳書類 16	前編 三-3-3	坂田墨珠堂
	御軍扇	器物 204	後編 ハ-4	
	御遠見鏡	器物 251	後編 ロ-28	
	オルゴール時計	器物 292	後編 ロ-34	
	尺時計	器物 294	後編 ロ-36	株式会社光陽社中 部事業所（名古屋市）
平成12年	天球儀	器物 257	後編 ロ-23	株式会社小西美術 工藝社（東京都港 区）
	地球儀	器物 256	後編 ロ-22	
平成13年	尺時計	器物 293	後編 ロ-35	大斗（名古屋市）
平成15年	攻城阿蘭陀由里安牟相伝	和書・訳書類 159	文書 I-141	武芳堂
	和蘭七州幟並近年渡来洋船徴幟	和書・訳書類 144	前編 四-3-13	
	和蘭官軍歩操規範全図	和書・訳書類 174	前編 四-3-23	
	煩鍊全集	和書・訳書類 17	前編 四-1-86	
	五色の土（見様）	文書・記録類 155	前編 三-3-2	
	入門誓詞	文書・記録類 84	文書 I-84	
	十六ポンドモルチール 口径正形（拓本）	図面類 112	文書 I-112	
	製硝新書	和書・訳書 258	前編 四-1-82	
	由利郡略図	絵図・地図類 36	前編 九-2-7	
	三兵答古知幾 3冊	和書・訳書 178～180	前編 四-3-5	
午年ヨリ長崎高島四郎太夫ヨリ御調入物其外控	文書・記録類 746	文書 I-93		
平成16年	養生館日常薬品大略	和書・訳書 94	前編 三-2-11	武芳堂
	辰年渡来唐国船御内密申上候風説書	文書・記録類 754	後編 五 十二-1-162	
平成17年	製煉書	和書・訳書類 19	前編 三-2-10	武芳堂
	羽州御陣中戦死傷控	文書・記録類 291	文書 I-225	
	條約書和解	文書・記録類 823	文書 I-179-11	
平成19年	銃の本	和書・訳書類 227	前編 四-3-21	武芳堂
	官等便覧	文書・記録類 829	文書 L-42	
	奥州出陣日記	文書・記録類 370	文書 L-344	
	掟	文書・記録類 27	文書 L-519	
平成23年	奥州出陣通知	文書・記録類 370	文書 L-344	株式会社大入（京 都市）
	植物図絵	文書・記録類 883	文書 J-6-1	
	植物図絵	文書・記録類 884	文書 J-6-2	
	仰出	文書・記録類 461	文書 L-36	武芳堂
	勃秀英閑話録	和書・訳書類 110	前編 三-2-50	
	煩鍊全集	和書・訳書類 18	前編 四-1-86	
平成24年	ホイッスル台正寸正面図	} 図面類 87～98	前編 九-二-11-5	株式会社大入
	ホイッスル台正寸側面図		前編 九-二-11-5	
	ホイッスル台車輪横正寸図		前編 九-二-11-5	
	ホイッスル部品図 9枚		前編 九-二-11-5	
	モルチール砲切形		図面 131	

※資料名については、原則として管理目録の名称を用いた。

「武雄鍋島家洋学関係資料」指定後の保存修理実績一覧

年度	資料名	指定番号	管理番号 〔「武雄鍋島文書目録」 「武雄鍋島家歴史 資料目録」による〕	施工業者	
平成27年	〔起請文〕(威遠流砲術)	文書・記録類 24	文書 I-62	一般社団法人国宝 修理装演師連盟 (京都市) ※ただし、施工場 所は九州国立博物 館	
	〔覚〕(高島面談応接につき)	文書・記録類 658	文書 I-188		
	〔書付下書〕(砲術相伝之次第に付、横山平兵衛是迄差出)	文書・記録類 893	文書 I-108		
	〔書付下書〕(ホーウイテル試放、醇左衛門先年大怪我に付)	文書・記録類 895	文書 I-105		
	〔書状〕(ホイッスル、試射、平山不審筋二付入牢申付)	文書・記録類 1290	文書 I-96		
	〔書状〕(ホーウキッスル拝借に付)	文書・記録類 1292	文書 I-116		
	覚 (東京凱旋の士卒控)	文書・記録類 388	文書 L-311		
	周発図説	和書・訳書 202	文書 I-145		
	長崎方控 二	但し応急処置	文書・記録類 734		前編二-2-10
	長崎方控 三		文書・記録類 735		前編二-2-10
	長崎方控 四		文書・記録類 736		前編二-2-10
長崎方控 五	文書・記録類 737		前編二-2-10		
平成28年	練陣正格	和書・訳書 197	文書 I-135	平成 28 年度以降 は修理工房宰匠株 式会社 (福岡県筑 紫野市) ※ただし、施工場 所は九州国立博物 館	
	〔書状〕(蘭書再調査に付き)	文書・記録類 1289	文書 I-95		
	規矩元法町見目録聞書	和書・訳書 14	前編三-3-7		
	雷銃操法 一	和書・訳書 192	前編四-3-9		
	(銘板)「NEGRETTI & ZAMBRA LONDON」、(背部墨書) 「マク子シユーム 尺度并量目 一分時間 七寸八歩 西一時 四 丈六尺八寸 量目 一厘 二寸五分 一分 二尺五寸 西一時 一兩 八分五厘」、(箱蓋表墨書)「ガルハ焼入」、マネグネシウムリ ボン 1 巻、書付 1 紙あり	器物類 135	後編2-ロ-13		
	薬品用ガラス瓶	器物類 53・103・104	続編ロ-48-1, 2, 3		
	周発図説附録 上	和書・訳書 262	前編四-1-107		
平成29年	萬国新話 三	和書・訳書 113	前編二-4-7-1	平成 28 年度以降 は修理工房宰匠株 式会社 (福岡県筑 紫野市) ※ただし、施工場 所は九州国立博物 館	
	萬国新話 四	和書・訳書 114	前編二-4-7-2		
	火薬其外極秘帳	和書・訳書 281	続編二-325		
	阿蘭陀政府送書籍御買上之儀申上條書付	文書・記録類 768	文書 I-362		
平成30年	書類 (蘭砲術稽古人数)	文書・記録類 745	文書 I-133	平成 28 年度以降 は修理工房宰匠株 式会社 (福岡県筑 紫野市) ※ただし、施工場 所は九州国立博物 館	
	阿蘭陀持越書籍銘記	文書・記録類 759	文書 I-353		
	短筒細工留	文書・記録類 864	前編四-1-110		
	合薬当分控	文書・記録類 872	文書 I-159		
	命薬集	和書・訳書 112	前編三-2-7		
	周発図書本書別記	和書・訳書 263	前編四-1-108		
令和元年	別爾撰津斯目次 天	和書・訳書 38	前編三-3-19-1	平成 28 年度以降 は修理工房宰匠株 式会社 (福岡県筑 紫野市) ※ただし、施工場 所は九州国立博物 館	
	別爾撰津斯目次 地	和書・訳書 39	前編三-3-19-2		
	〔兵器仕整其外申付越候品々控〕	文書 878	続編二-166		
	薩州鹿兒島見取絵図	絵図・地図類 13 他	前編九-2-2		
令和2年	起請文 (高嶋流砲術)	文書・記録類 25	文書 I-64	平成 28 年度以降 は修理工房宰匠株 式会社 (福岡県筑 紫野市) ※ただし、施工場 所は九州国立博物 館	
	異船渡来ニ付而□□ (旦那) 様御都合御心遣被為蒙□□□ (仰候一) 通控	文書・記録類 94	文書 I-52		
	奉願口上覚	文書・記録類 593	文書 M-136		
	〔番隊出陣仕組〕	文書・記録類 687	文書 I-246		
	規矩術針見述方円順度	和書・訳書 13	前編3-3-8		
	山砲演式	和書・訳書 191	後編5-4-3-5		
	書状	文書・記録類 1134	文書 L-320		
令和3年	覚 (小荷駄方下役人名)	文書・記録類 364	文書 L-392	平成 28 年度以降 は修理工房宰匠株 式会社 (福岡県筑 紫野市) ※ただし、施工場 所は九州国立博物 館	
	〔達書〕(御凱陣式挙行につき)	文書・記録類 386	文書 L-22		
	萬宝叢書硝石篇	和書・訳書 173	前編3-3-5		
	唐山并諸異国雜記	和書・訳書 132	文書 I-29		
	唐山并諸異国雜記より日本江道乗 附所々土産付	和書・訳書 133	文書 I-30		

(3) 防災・防火

立地的には、洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域には該当していない。令和元（2019）年8月佐賀豪雨の際は、駐車場の一部に浸水が見られたものの建物には影響がなかった。建物の床下には点検用ピットが設けられ、地面から床下面まではおおよそ150cm高の空間があるが、一般収蔵庫・メディアホールでは、この空間に水が溜まる状況を確認している。床下面近くまで水位が上昇したが、室内の湿度への影響はなかった。特別収蔵庫・一般収蔵庫共に地上に設けられ、また空調設備などの機器も高い位置に設置されていることから、浸水被害を受けにくい構造となっている。

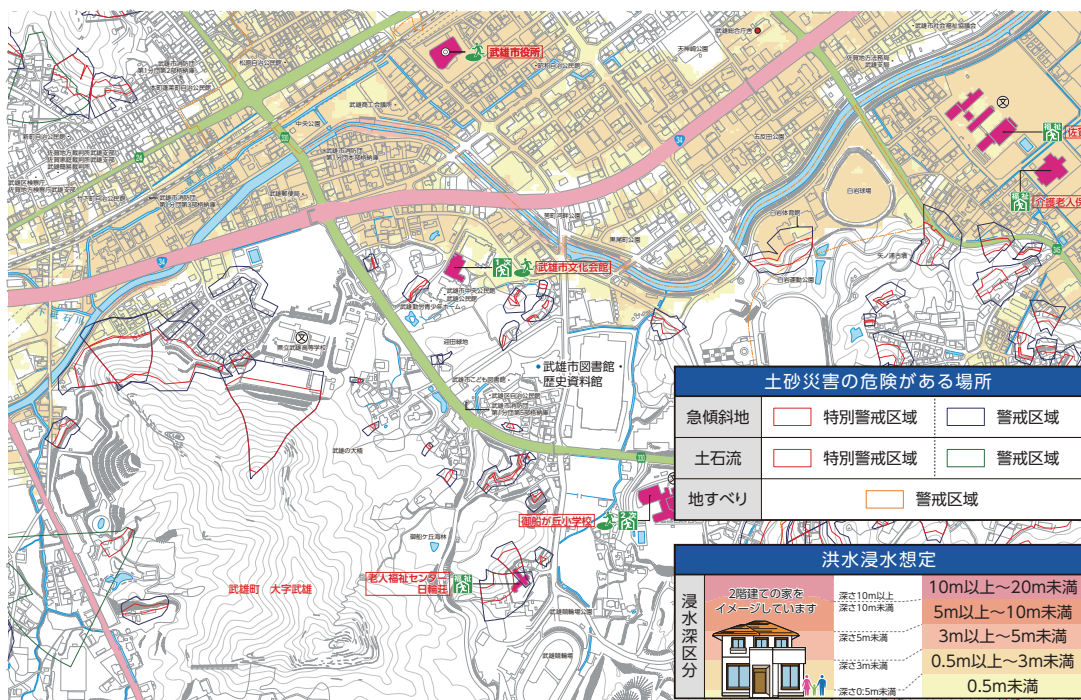
また、令和3年の8月11日からの大雨による災害に際しては、敷地内に被害はなかった。

昭和56（1981）年に定められた新耐震基準法に基づき設計された建物の耐震強度に問題はなく、蘭学・企画展示室のうち、展示専用の企画展示室と資料収蔵エリアは独立防火区画である。このことから災害時には空間を閉鎖して資料を保全することを前提としており、発災時の資料の退避動線などは想定していない。定例の消防訓練においては、職員が退避前に展示室及び収蔵エリアの扉が完全に閉鎖・施錠されていることを確認することとしている。また、防火扉の前を塞がないことを日常的に徹底している。

消火設備は、一般収蔵庫第2層に消火栓があり、それぞれの階層に消火器1つが設置されている。通路部には、消火器1つが設置されている。特別収蔵庫には消火設備は設置されていない。

特別収蔵庫の棚は可動式で、各棚段には転落防止用のベルトが設置されている。一般収蔵庫の棚は固定式で、棚板の前に滑り出し防止の可動式ストッパーが施され、転落防止の鎖が設置されている。平成17（2005）年の福岡西方沖地震及び平成28年の熊本地震の際は、武雄市で震度4を記録したが、収蔵庫内での資料の転落などは発生しなかった。

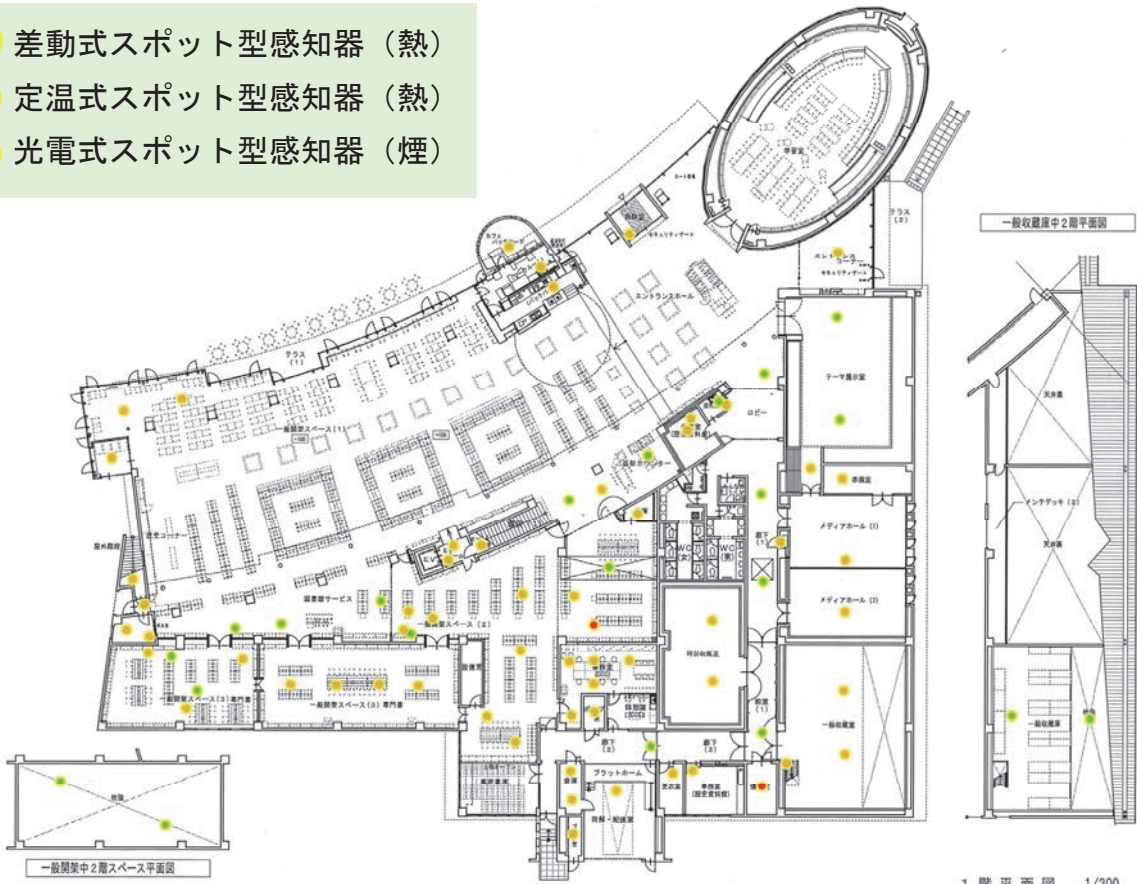
災害発生時の配備体制、職員の安否確認・登庁要請システムについては市が構築しており、担当課内の緊急連絡先も共有している。また館内で火災が発生した場合の通報・消火・避難のマニュアルは定められており、訓練も来館者の協力も仰いだうえで最低年2回実施されている。ただし、火災以外の災害発生・被災に関わる館独自のマニュアルなどは作成していない。



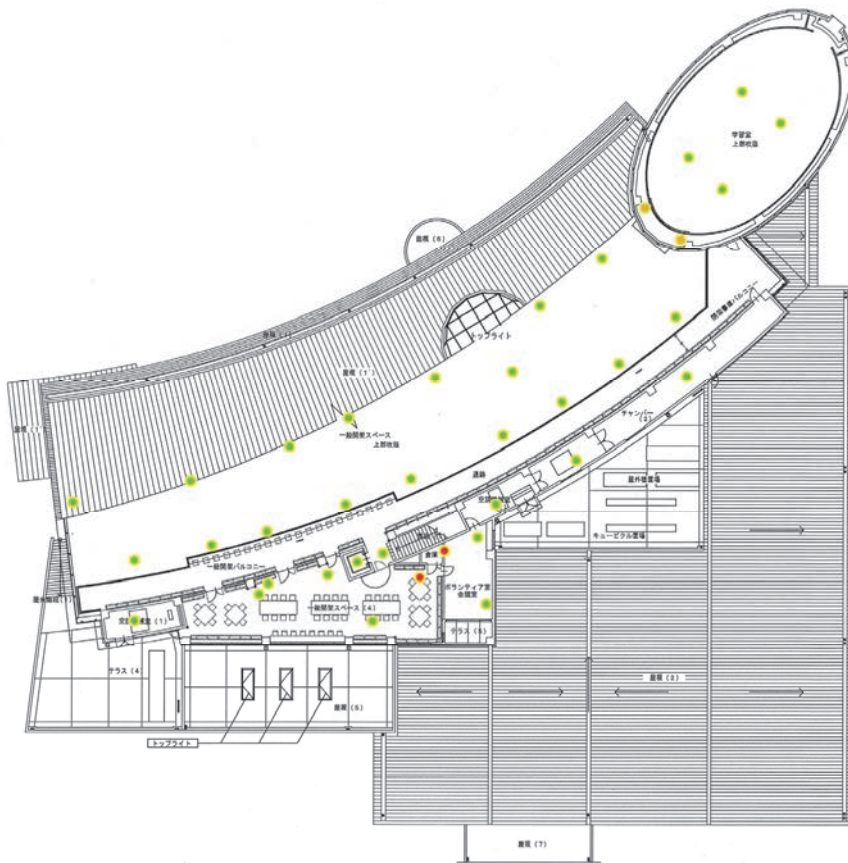
【武雄市ハザードマップ（武雄市図書館・歴史資料館周辺）】

館内の火災探知機配置図

- 差動式スポット型感知器 (熱)
- 定温式スポット型感知器 (熱)
- 光電式スポット型感知器 (煙)

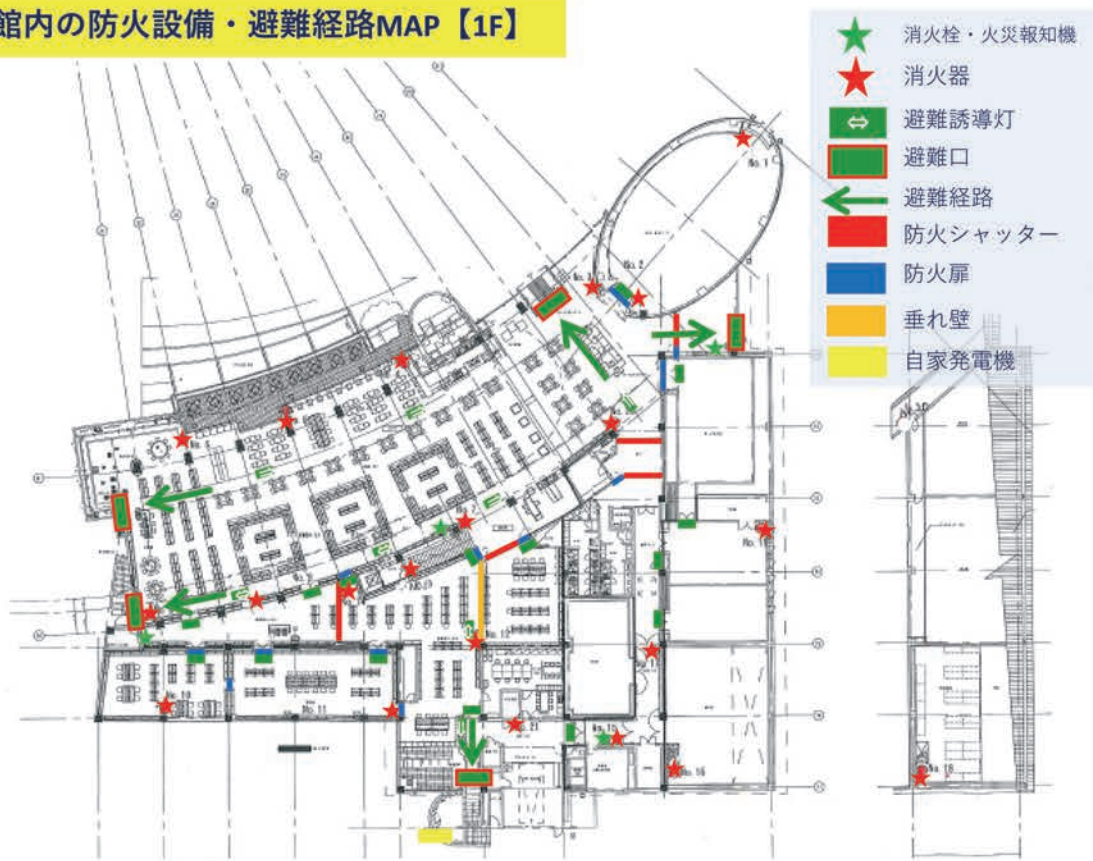


1 階 平面図 1/200

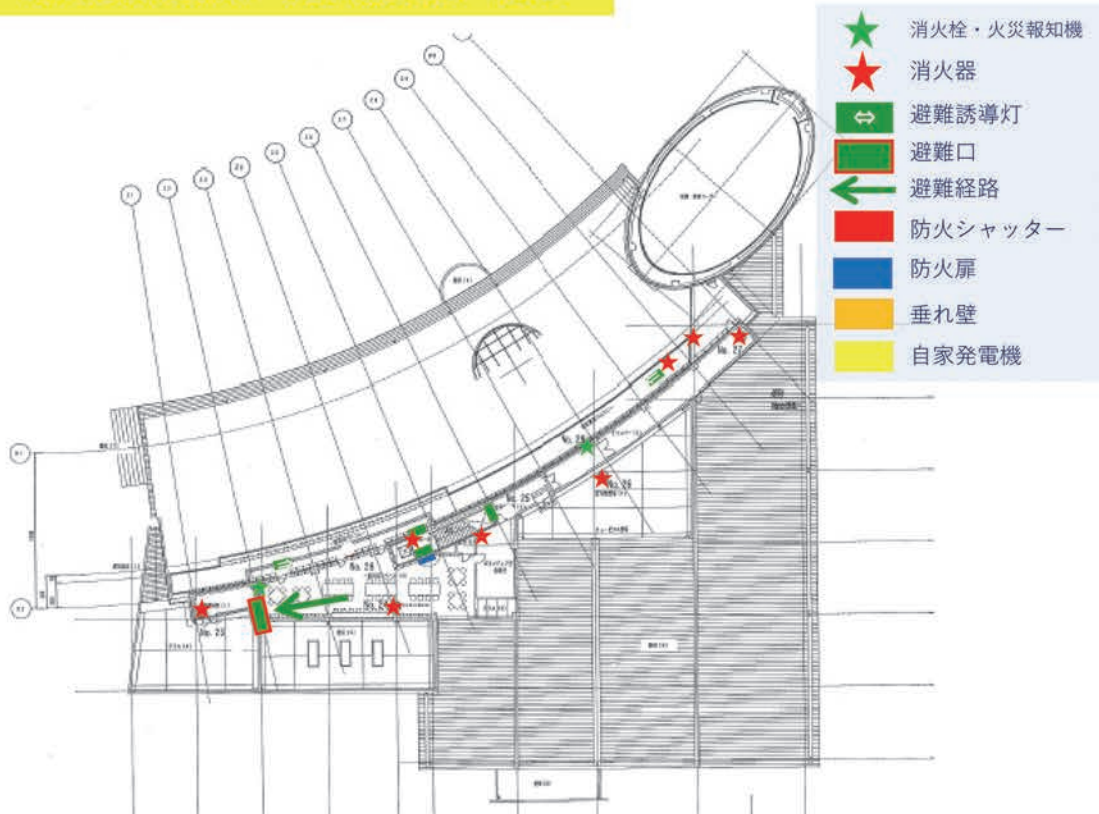


2 階 平面図 1/200

館内の防火設備・避難経路MAP【1F】



館内の防火設備・避難経路MAP【2F】



(4) 保存環境

館内には、温湿度管理がなされた特別収蔵庫、温度管理可能な一般収蔵庫の2つの収蔵専用施設がある。特別収蔵庫の温湿度設定、一般収蔵庫の温度設定は年間を通して一定で運用している。空調機のメンテナンスは、特別収蔵庫、企画展示室も含め、全館で年2回実施している。

・温湿度の管理

特別収蔵庫：温湿度は開館以降、空調の中央監視装置で必要に応じて監視を行っていたが、平成28(2016)年1月に中央監視装置を更新したことにより、温湿度の記録データの出力が可能となった。令和3(2021)年2月に事務室内にモニターを設置し、温湿度の数値を随時目視確認している。

設定温度20℃、設定湿度55%としており、冬場は温度が±0.5℃、湿度は±2%、夏場は温度が+0.5℃・-1.5℃、湿度が+5%・-1%程度の変動がある。なお、空調機のフィルターは防塵のみであり、加湿器は恒温恒湿空調(ヒーター再熱+蒸気加湿)自動制御により管理している。(センサーは、収蔵庫内の壁面、床面から155cmの位置に設置されている。)

なお平成24年4月に、劣化していた扉の気密タイトゴムを交換した。

一般収蔵庫：設定温度20℃としているが、外気温の影響を受け、年間の平均は22℃程度である。(データロガーにより1階層中央部付近を計測)湿度の管理機器は設置しておらず、平均湿度は45%程度と低い傾向にあり変動幅も大きい。一般収蔵庫の空調機のフィルターは抗菌、防カビ仕様である。

前室：特別収蔵庫と一般収蔵庫の間には前室としての空間があるが、一般収蔵庫と同様に空調による温度管理だけで湿度の調整機能は備わっていない。また、バックヤードと展示室をつなぐ通路として使用することから、特別収蔵庫、一般収蔵庫の環境を外部の温湿度の変化や埃などから守る緩衝環境としての役割は弱い。

燻蒸室：収蔵エリアの一画にある燻蒸室は、外壁に面しており独自の空調設備もないことから、温湿度が変動しやすい。

・空気環境

令和3年2月に実施した特別収蔵庫の環境測定の結果は、下記の通りである。

特別収蔵庫環境測定分析結果					
分析項目	単位	結果	定量 下限値	室内 推奨値	分析方法
ホルムアルデヒド	Ppb	12	8	80 以下	H12. 生衛発第1093号 吸引方式-高速液体クロマトグラフ法
アセトアルデヒド	Ppb	7	3	30 以下	H12. 生衛発第1093号 吸引方式-高速液体クロマトグラフ法
アンモニア	Ppb	20 未満	20	30 以下	液体捕集-インドフェノール青吸光度法
ギ酸	Ppb	8	5	10 以下	液体捕集-イオンクロマトグラフ法
酢酸	Ppb	50 未満	50	170 以下	液体捕集-イオンクロマトグラフ法

(調査：一般財団法人 九州環境管理協会)

いずれの値も、東京文化財研究所が、顔料や膠といった文化財の素材に対する劣化影響から設定している空気中の「のぞましい値」室内推奨値を満たしている。

・清掃

収蔵庫内の清掃作業については、各々の部屋専用の筥による掃き取り及び雑巾・不織布による

乾拭き、また必要に応じて文化財用ウェットタオルにて、2か月に1回程度実施している。

・収蔵庫を含むバックヤードのスペース

特別収蔵庫：開館時、部屋の中央部に4台の棚が設置されていたが、屏風などの大型の資料の収納には向かない形状であったことから1台を増設した。特別収蔵庫は武雄鍋島家資料を収蔵することを目的に設計されたことから、開館時から収納率は100%に近い状態にあった。このため、その後の関連資料の受け入れ、修理に伴う資料自体の嵩増し、収蔵方法の変化（木箱入り資料を別の保存箱に別置するなど）などにより、棚から溢れた資料が通路の一部を塞ぐ状態も生じている。

一般収蔵庫：考古資料、寄託資料の収蔵を主としているが、重要文化財のうち大砲や一部の火薬資料を収納している。考古資料については、大型のものが多く、甕や壺など不定形の資料がある。一部の演示具、刊行物の在庫なども収納していることから収納棚の圧迫を招いている。館内にはこれらを移転する倉庫設備がないことなどにより、一般収蔵庫においても、収納スペースに余裕はない。

燻蒸室：管理目録作成時の調査台帳、昭和40年代に編纂された市史の原稿、ビデオ、フィルム、マイクロフィルム、写真などの二次資料、文化財関係の永久保存の公文書、寄託の民俗資料（大型絵馬）などを収蔵している。コンテナなどを使用して棚の有効活用を図っているが、収蔵スペースに余裕はない。

その他作業スペース：搬出入する資料の梱包・開梱などを行う専用スペースがないため、これらの作業は蘭学・企画展示室で行っている。しかし、視察・講座などでも頻繁に使用するスペースであることから、日常的な資料調査や写真撮影に支障をきたすこともある。

トラックヤード：車両の種類によっては奥行きや高さが不足し、車両を侵入させた状態で外部シャッターを閉めることができない場合があり、資料の搬入・搬出の際、外気を遮断できない。

・長寿命化改修工事

建設から20年を経て、老朽化による影響が散見されたため、令和2年度に施設全体の長寿命化改修工事として、空調設備・照明の更新、屋根・外壁の補修などを行った。また特別収蔵庫・一般収蔵庫については、資料への影響を最小限に抑制し空調設備の更新工事を行った。

・防犯

本館内の監視は33台の監視カメラ（歴史資料係事務室内・図書館事務室内でモニター・録画）、館外については駐車場に設置された監視カメラ（市役所内でモニター・録画）で行われている。

施設全体は24時間の機械警備とあわせ、施設周辺の巡回警備が夜間に2度行われている。発報があった場合は警備業者が即時現場を確認し、発報事由が軽微であった場合は翌朝、文書で報告が提出される。現場確認の結果、施設側の即時対応が必要と判断された場合は施設管理者（館長）に第一報があり、定められた緊急連絡網に従い歴史資料係へ連絡が入る。報告後の行動については状況に応じることとして、特にマニュアルなどは定めていない。

また、職員通用口には令和3年度にテンキーロックが設置され、バックヤードへの職員以外の立ち入りを制限している。訪問者にはインターホンで対応している。

特別収蔵庫には、種類が異なる2種類の個別キーを設置している。一般収蔵庫、燻蒸室の鍵は個別キーである。蘭学・企画展示室においても、展示ケースの鍵は個別キーである。これらの個別キーはスペアキーを含め担当である歴史資料係の管理下であり、使用者も原則として歴史資料係に限定している。特別収蔵庫、一般収蔵庫への出入りについては、入室管理記録を取っている。

(5) 有害生物被害対策

複合施設であることから、資料館単独の施設である場合より防虫対策には注意して取り組んでおり、近年推奨されている IPM(Integrated Pest Management：総合的有害生物管理) の考え方に基き、可能な予防策を実施している状況である。

平成 24 (2012) 年より館内でトラップによる虫の侵入状況の調査を始め、年 4 回の調査を実施している。過去の調査において、特別収蔵庫及び一般収蔵庫内への虫の侵入は確認されていない。展示室内においては、コバエの侵入が継続して一定数確認され、文化財害虫としてはセイヨウシミ・アリが確認された例がある。他にはヒラタチャタテ・イガ・ゴキブリ類・ヒメマルカツオブシムシ幼虫などが、バックヤードを中心に散発的に確認されている。

資料の搬入搬出を行うトラックヤードから収蔵庫エリアまでの距離が短く、虫の侵入が防ぎにくい。収蔵エリア通路においても、ヒラタチャタテが確認されたことがある。

このため平成 25 年の大規模改修時に、トラックヤードから収蔵庫への通路に扉 1 か所を新設し内側に薄型室内用マットを常置した。平成 28 年には同扉に簡易な防虫ブラシを設置した。更に、収蔵エリアへの扉 2 か所の下部にわずかながら隙間が見られたため、平成 30 年に防虫ブラシを設置した。なお、平成 12 年の開館時より、特別収蔵庫への立ち入り時は専用のスリッパへの履き替えを実施している。

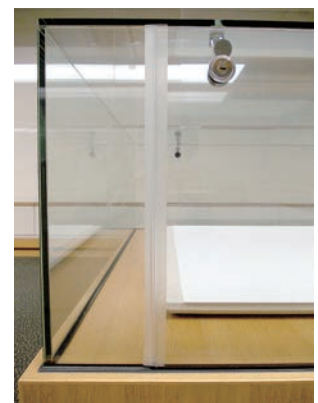
来館者入口から展示室までの距離が短く、3つの入口のうち1つには風除室がない。1日の来館者数が平均で2,000人を越えることから扉が開いている時間も長く、虫の侵入が防ぎにくい状況がある。このため展示室においては、引き戸タイプの展示ケースや移動ケースの一部に、令和 2 (2020) 年度にシリコン系の隙間テープを施した。

燻蒸については、365日開館していることから作業の時間が数日にわたる東京文化財研究所推奨のガス系薬剤(エキヒューム・ヴァイケーン)は使用できないが、収蔵エリアについては年4回、展示室については年1回(基本的に梅雨の後)、ミスト系のブンガノン(防虫)・ライセント(防カビ)による燻蒸作業を行っている。

【参考】IPMとは：日本の博物館では文化財の虫害防止のために、長らく燻蒸用の化学薬品として臭化メチルが使用されてきた。この薬剤は地球温暖化の原因になるオゾン層破壊物質として、1991年のモントリオール議定国会合で廃止リストに追加され、2004年12月末で全面的に使用禁止となった。そこで被害が発生してから対処する「処置中心」から、被害を未然に防止する「予防対策中心」に考え方が移行。できるだけ薬剤に頼らず、人の目と手による日常の点検や清掃、ゾーニングなどにより虫やカビの有害生物を防ぐ予防に重点をおいた総合的な有害生物の管理システムのこと。



防虫ブラシ設置状況 (収蔵エリアへの扉下部)



隙間テープ (左: 引き戸展示ケース 右: 移動ケース)

3 資料の活用について

(1) 展示環境の概要

セミエアタイトを含め、展示ケースを設置した専用の企画展示室がある。開館当初は全ての展示ケースが引き戸式であったため、平成 23（2011）年 4 月に改修工事を行い、ケースの一部を片開き戸のセミエアタイト式とした。ただし温湿度管理の機能は付加していない。同時に、壁の一部が防煙壁であったものを防火壁に改修、またメディアホールと企画展示室を隔てる扉に煙感知器連動自動閉鎖装置及び閉鎖順位調整機を取り付けることにより、企画展示室を独立防火区画とした。更に、劣化していた壁と展示台のクロスの張替、ケース内照明を調光機能付きに取り換えるなどの工事を実施した。

また、令和 2（2020）年度の長寿命化改修工事に際しては、照明器具の LED 化とライティングダクトの増設を行った。

展示室内には各部屋に 2 台の監視カメラを設置し、歴史資料系の事務室内で常時モニターできる。また再生も可能である。

メディアホールと専用の企画展示室を一体化した運用が可能であるが、メディアホールの展示は、移動ケース・仮設ケース及び壁展示のみが可能である。

企画展示室の展示ケース内の平均温度は 21℃、平均湿度は 48%、空気の環流がないことから、セミエアタイトケース内の湿度が低い傾向があり、冬場は 40%を下回る日も少なくない。メディアホールの平均温度は 21℃、平均湿度は 55%。両室ともに、変動の幅は小さくない（いずれもデータロガーで、企画展示室はケース内 2 か所、メディアホールは小型ケースに収納した状態で 2 か所を計測し、1 か月ごとにデータの吸上げを行っている）。

温湿度管理は部屋の空調に頼っているが、空調を稼働させているのは展示などで部屋を使用している場合のみである。稼働していない期間は季節や昼夜の別に拠る温湿度変化が見られる。

湿度の調整は、必要に応じてアートソープ（設定湿度 60%）を配置している。小型の移動ケースでは有効であるが、壁面ケースは容積が大きいことから、展示期間中は空調により湿度が低くなる傾向にある。木製品などを中心とした展示品に対する温湿度の影響を考慮しながら、温湿度の毎日の観察が必要となってくる。特に梅雨の時期（6・7月）と、冬の乾燥期（特に 12月～2月）には湿度変化が激しいため、注意が必要である。国の重要文化財の展示に関しては、より一層の注意を払う必要がある。

なお、令和 3 年 2 月に実施した環境測定の結果は、下記の通りである。

企画展示室環境測定分析結果					
分析項目	単位	結果	定量 下限値	室内 推奨値	分析方法
ホルムアルデヒド	Ppb	14	8	80 以下	H12. 生衛発第 1093 号 吸引方式 - 高速液体クロマトグラフ法
アセトアルデヒド	Ppb	6	3	30 以下	H12. 生衛発第 1093 号 吸引方式 - 高速液体クロマトグラフ法
アンモニア	Ppb	20 未満	20	30 以下	液体捕集 - インドフェノール青吸光光度法
ギ酸	Ppb	5 未満	5	10 以下	液体捕集 - イオンクロマトグラフ法
酢酸	Ppb	50 未満	50	170 以下	液体捕集 - イオンクロマトグラフ法

（調査：一般財団法人 九州環境管理協会）

いずれの値も、東京文化財研究所が、顔料や膠といった文化財の素材に対する劣化影響から設定し

ている空気の「のぞましい値」、室内推奨値を満たしている。

展示室内の清掃については、歴史資料係が実施している。展示期間中は拭き取りと露出展示が無い場合は掃除機による清掃を毎日1回行っており、その際、虫の侵入状況やデータロガーに表示される温湿度、展示資料の状況を目視で確認している。展示期間外は、随時、掃除機による清掃を実施している。

(2) 資料の展示

現在、年間4回程度開催する企画展の内、1～2回は「武雄鍋島家洋学関係資料」を主体とした企画展を原則入場無料で実施している。「国宝・重要文化財の公開に関する取扱い要綱」(平成30年1月29日改訂)の「2 公開のための移動回数及び期間」に則り、年間の合計展示日数は、資料ごとに60日を越えないように調整している。1回の展示日数は30日を原則とし、会期中は無休である。

開館時間は平成12(2000)年から平成25年度までは9時～17時、原則月曜日休館であった。平成25年改装以降、年中無休、閉館時間21時としたことにより、宿泊の観光客が立ち寄りやすく、平日の日中に来館しにくい層が観覧する機会が増えるなどのメリットがあった。一方で、延べ展示時間が長時間に及ぶこと、会期中休館日を設けないことによる資料への負荷が大きいたことが危惧された。このため、時間当たりの入場者数などを鑑み、平成29年度から令和3年度までは、日～木は9時～18時、金・土曜日は9時～21時としていた。さらに令和4(2022)年度からは開館時間を日～木は9時～17時、金・土曜日は9時～18時に改めた。企画展の多くは、武雄鍋島家資料を始めとした所蔵資料による独自展示であり、収蔵資料には複数回の企画展を開催するに足る十分な量と質がある。

開館した平成12年から令和3年にかけて、企画展を約90回(うち13回は規模を拡大した特別企画展)開催した。「武雄鍋島家洋学関係資料」に関連する展示はそのうち24回(うち特別企画展は8回)である。特別企画展に際しては一般販売用の図録を作成している。「武雄鍋島家洋学関係資料」に関連する図録は8冊、加えて企画展以外の機会に作成した関連図録が6冊となっている。図録の販売は、館内と武雄温泉駅内の施設で行っており、ホームページでは通信販売の案内をしている。また各特別企画展では解説ビデオを作成しており、会場で上映するほか、図書館資料として貸し出している。入場者は、1回の企画展につき、6,000人から15,000人台の間で推移しており(自動カウンターにより計測)、1回の企画展について3～4回程度の一般向けギャラリートーク、要望に応じて団体向けの展示解説を行い、資料に対する理解を深めてもらう機会を作っている。

その一方で、蘭学・企画展示室で期間を限った展示となった平成25年度以降、いつでも重要文化財を見ることが出来る常設の展示については、市民や研究者から要望もあがっている。

なお、かつての常設展示室「蘭学館」は、説明パネルが壁への埋め込み式であり、蘭学をテーマにしたゲームや定期上映される動画、時代背景を説明する電動紙芝居なども設置され、展示構成が固定されていた。また、資料の保護などとの兼ね合いのために、所蔵資料あるいは他館などが所有する関連資料などを元に作成したレプリカを活用していたところであるが、市民からは、新鮮味がない、レプリカが多いなどの意見もあり、将来的に常設の展示を考えるに際しての課題である。

また、前述のとおり歴史資料館主催の企画展の開催日数については年間120～130日程度(「武雄鍋島家洋学関係資料」関連については30～60日程度)であるが、これ以外に図書館主催の企画展を40～50日程度、市民や市内の団体による企画展(公募制)を60日程度開催している。年間の開催日は220日～240日程度となっている。

企画展の実績（「武雄鍋島家洋学関係資料」展示分）

年 度	タ イ ト ル	期 日
平成12年度	武雄 ～鍋島家・温泉・やきもの～	2000/10/1～2001/1/21
平成13年度	【特別企画展】 岩倉使節団一三〇年 海に火輪を 山口尚芳の米欧回覧	2001/1/25～3/10
平成16年度	【特別企画展】 蘭学の来た道 武雄領主の買いもの帳	2004/10/15～12/12
平成20年度	フェートン号事件と武雄	2008/3/29～5/5
	篤姫の時代と武雄	2008/11/1～11/14
	皆春齋 鍋島茂義の絵と絵の具	2009/2/7～3/22
平成21年度	武雄の蘭書展	2009/10/28～12/13
平成22年度	最後の武雄領主 鍋島茂昌	2010/7/17～8/29
平成23年度	岩倉使節団 米欧回覧 140年 知っていますか？ 山口尚芳	2011/10/29～11/27
	【特別企画展】 武雄の時代～西洋砲術導入の軌跡～	2012/2/11～3/20
平成24年度	没後 150年 先見の領主 鍋島茂義	2012/9/23～10/23
平成25年度	武雄鍋島の蘭学	2013/4/1～6/2
	武雄 ～鍋島家・温泉・やきもの～	2013/7/13～8/15
	【特別企画展】 九州の蘭学 武雄の蘭学	2014/2/1～3/16
	武雄鍋島家洋学資料展	2014/3/19～3/30
平成26年度	【特別企画展】 日本を動かす！武雄鍋島家洋学資料展	2014/12/13～2015/1/12
	皆春齋	2015/2/14～3/22
平成27年度	武雄～鍋島家・温泉・やきもの～	2015/4/29～5/31
	武雄の大砲を見に行こう	2015/8/8～9/6
	【特別企画展】 佐賀の乱と武雄	2016/2/13～3/13
平成28年度	だんな様のお買いものー長崎方控の世界ー	2016/8/6～9/4
平成29年度	【特別企画展】 明治 150年 鍋島茂昌と羽州戦争	2017/11/18～12/17
平成30年度	どーして武雄で秋田竿燈なの？	2018/4/28～8/27
	武雄軍団 秋田を駆ける	2018/6/2～7/1
	知っていますか？山口尚芳	2018/7/7～8/5
	西洋の絵画と西洋の青	2018/10/27～11/25
平成31年度 令和元年度	すごいぞ！武雄 ～見たい！知りたい！学びたい！武雄の蘭学～	2019/7/27～8/25
	【特別企画展】 津山×武雄交流展 蘭学の競演	2019/11/16～12/15
令和2年度	二十歳になりました ～武雄市図書館・歴史資料館 20年のあゆみ～	2020/9/26～10/25
	武雄のキセキ 蘭学への挑戦 ～武雄鍋島家資料「長崎方控」「當用控」をひもとく～	2021/1/30～2/28
令和3年度	武雄から世界へ ～岩倉使節団副使・山口尚芳を知っていますか？～	2021/10/16～11/21
	秋月×中津×武雄 特別交流展 伝染病と闘う～種痘の導入と武雄領の医学	2022/1/29～2/27

作成図録等一覧表

指定資料に関連する図録

図 録 名	作成年月	備 考
すごいぞ！武雄 ～見たい！知りたい！学びたい！武雄の歴史～	令和2年3月再販	平成30年度作成の小中学生向け副読本の販売用
蘭学の競演	令和元年11月刊行	令和元年度特別企画展の解説図録、ビデオ有
鍋島茂昌と羽州戦争	平成29年11月刊行	平成29年度特別企画展の解説図録、ビデオ有
佐賀の乱と武雄	平成28年2月刊行	平成27年度特別企画展の解説図録、ビデオ有
日本を動かす 武雄鍋島家洋学資料	平成26年12月刊行	重要文化財「武雄鍋島家洋学関係資料」の紹介図録
九州の蘭学 武雄の蘭学	平成26年2月刊行	平成25年度特別企画展の解説図録、ビデオ有
江戸のサイエンス 武雄蘭学の軌跡	平成25年4月刊行	平成25年度九州国立博物館トピック展示の図録
武雄の時代～西洋砲術導入の軌跡～	平成24年3月刊行	平成23年度特別企画展の解説図録、ビデオ有
戊辰戦争一四〇年 武雄軍団秋田を駆ける	平成20年12月刊行	
蘭学の来た道 ～武雄領主の買いもの帳～	平成16年10月刊行	平成16年に開催された武雄市制施行50周年記念特別展の解説図録、ビデオ有
海に火輪を 山口尚芳の米欧回覧	平成14年1月刊行	平成13年度特別企画展の解説図録、ビデオ有
皆春齋	平成13年1月刊行	平成12年度特別企画展の解説図録
武雄 ～鍋島家・温泉・やきもの～	平成12年10月刊行	武雄市図書館・歴史資料館開館記念特別展の解説図録
蘭学館	平成12年10月刊行	蘭学館（常設展）開設の際に作成した解説図録

翻刻本

タ イ ト ル	作成年月	備 考
武雄鍋島家資料 長崎方控・當用控	平成31年3月刊行	明治維新150年記念さが維新交付金により制作
肥前一国道則帳并古城間数其外委細	平成25年5月作成	自家製本
武雄領着到 鍋島茂義・茂昌の家臣たち	平成24年3月刊行	武雄鍋島家資料の翻刻本
近世武雄史談 鍋島茂義とその時代	平成19年3月刊行	武雄鍋島家資料の翻刻本

その他の刊行物

タイトル	作成年月	備考
戦国の九州と武雄 後藤貴明・家信の時代	平成 22 年 2 月刊行	平成 21 年度特別企画展の解説図録
鉄道開業 111 年 武雄に汽車が走ったころ	平成 18 年 2 月刊行	平成 17 年度特別企画展の解説図録
武雄が生んだ華やかな陶器の世界	平成 17 年 10 月刊行	「時巡り温泉祭」関連企画展の解説図録
北川重春回顧展	平成 15 年 10 月刊行	平成 15 年に実行委員会形式で開催された展示の図録
温泉～和みの空間～	平成 15 年 4 月刊行	平成 15 年特別企画展の解説図録
日本の空 日の丸が翔ぶ	平成 15 年 2 月刊行	平成 15 年松尾静磨生誕 100 年記念特別企画展の解説図録
早稲田大学図書館所蔵 『大隈文書 山口尚芳書簡』	平成 14 年 3 月刊行	武雄市図書館・歴史資料館の調査報告書



令和元年度企画展

すごいぞ！武雄～見たい！

知りたい！学びたい！武雄の蘭学～

展示解説風景



令和 2 年度企画展

武雄のキセキ 蘭学への挑戦

～武雄鍋島家資料「長崎方控」

「當用控」をひもとく～

展示状況

レプリカ作成一覧表（重要文化財指定分）

年 度	資料名	指定番号	管理番号	発注先
平成11年	地球儀・天球儀	器物類 256・257	後編二-ロ-22・23	渡辺教具製作所（埼玉県）
	錦御旗	器物類 200	後編二-ハ-1	染司よしおか（京都府）
平成12年	鶏卵紙写真	写真 1～7	後編二-ホ-1～7	ハシモト写真工房（福岡県）
	旗指物「御本陣」	器物類 213	後編二-ハ-31	大斗（愛知県）
	マーリン 完全仏蘭辞典	洋書類 17	蘭書 106	丹青社
	マーシャル 神経組織とその病気	洋書類 109	蘭書 21	
	和蘭国王軍の服装と武装	洋書類 110	蘭書 77	
	和蘭王軍歩兵の教練及演習規則	洋書類 113	蘭書 23	
	ネグレッティ・ザムブラ社 光学数理気象関係器械類絵入り解説目録	洋書類 94	蘭書 49	
平成13年	VOC銘麻袋	器物類 290	後編二-ロ-84	大斗（愛知県）
	ガラス碗	器物類 276	後編二-ロ-61	西尾製作所（京都府）
	把手付ガラス器	器物類 24	後編二-ロ-59	
	把手付ガラス器	器物類 27	後編二-ロ-67	
平成14年	ガラス瓶	器物類 21	後編二-ロ-56	西尾製作所（京都府）
	ガラス花瓶	器物類 288	後編二-ロ-66	
	ガラス碗	器物類 278	後編二-ロ-70	
平成15年	大砲設計図〔29、20、13 ドイムモルチールと20 ドイムハウキッスル（写）〕	図面類 84	設計図 6	便利堂（京都府）
	長崎御注文方控	文書・記録類 813	文書 I - 169	
	高嶋流神文納	文書・記録類 24	文書 I - 62	
	反射炉・大砲鑄型及び製作工程	図面類 83	設計図 58	
平成16年	羽州御陣中諸所續図/[鶴岡周辺図]	絵図・地図類 35	前編九-2-7-11	便利堂（京都府）
	旋盤（大砲ニ穴ヲ得ル機械）	図面類 2	設計図 60	
平成18年	旗指物 「陣場方」	器物類 206	後編二-ハ-24	株式会社 城島旗染工（佐賀県）
	「武雄兵糧方」	器物類 207	後編二-ハ-25	
	「武具方 矢玉薬方」	器物類 208	後編二-ハ-26	
	「武雄 備立方」	器物類 211	後編二-ハ-29	
	御軍扇	器物類 204	後編二-ハ-4	株式会社 京都科学
	服章（錦）	器物類 198	続編一-ハ-7	
平成20年	ホクトメートル（液体比重計）	器物類 19	後編二-ロ-54	西尾製作所（京都府）
	旗指物 「武」	器物類 230	後編二-ハ-48	株式会社 城島旗染工（佐賀県）
	「家紋」	器物類 210・215・217	後編二-ハ-28・33・35	株式会社 城島旗染工（佐賀県）
	旗指物 「使」	器物類 226	後編二-ハ-44	
	「目」	器物類 216	後編二-ハ-34	
平成25年	薩州鹿児島見取絵図の内「磯別邸の図・華倉村銅吹試方」	絵図・地図類 24	前編九-2-2-12	株式会社 大入（京都府）
平成26年	[蒸気機関の図]	図面類 99	続編二-204	株式会社 大入（京都府）
	プレットモーレン図	図面類 159	続編二-317	
	[起請文]（威遠流砲術）	文書・記録類 24	文書 I -62	
	[書状下書]（ホーウイテル試放、醇左衛門先年大怪我に付）	文書・記録類 895	文書 I -105	
	[書状]（ホーウキッスル拝借に付）	文書・記録類 1292	文書 I -116	
	[沙汰書写]（鍋島茂昌関東出陣命令書）・（鍋島茂昌関東出陣命令書）	文書・記録類 167・169	文書 L -16	
	大村益次郎書状	文書・記録類 1220	文書 L -422	
平成28年	長崎方控 二～五	文書・記録類 734～737	前編二-2-2-10	株式会社 大入（京都府）

※管理番号は「武雄鍋島文書目録」「武雄鍋島家歴史資料目録」による

(3) 資料の公開と学術的活用

館内での公開に加え、年に数件、「武雄鍋島家洋学関係資料」を含む資料の貸出申請に対応し、武雄市外での紹介の機会となっている。国の重要文化財の貸出に際しては、貸出先となる展示施設のセキュリティや温湿度状況、当該文化財の公開日数などを勘案の上で承認し、文化財保護法第53条に基づき、定められた手順に則った公開を求めている。

資料の画像使用に関する申請は、年間延べ100件以上受理している。特に、安政4（1857）年に佐賀藩士らが薩摩藩の集成館事業を視察した際に記した絵図類「薩州鹿兒島見取絵図」は、佐賀本藩と武雄領にしか伝来しておらず、平成27（2015）年に旧集成館機械工場が世界遺産「明治日本の産業革命遺産」に登録された前後から、利用申し込み件数が増加している。

資料の一部（文書・記録類中心）はマイクロフィルム化（一部デジタル化済）、画像化されている。佐賀県立図書館においてはマイクロリーダー、国文学研究資料館、東京大学史料編纂所ではマイクロリーダー及び一部はデジタル化されたデータで館内閲覧が可能である。当館でもマイクロフィルムとデジタル化された一部のデータを保有しているが、機器の関係で館内での閲覧には対応していない。

現物資料の閲覧については、メディアホールや企画展示室を活用して対応している。しかし、メディアホールは視察・講座などでも頻繁に使用するスペースであることから、日常的な資料調査や写真撮影に支障をきたすこともある。

外部講師を招いて開催している古文書講座においては、指定資料を含む地元関連資料をテキストとして使用している。例年、市民を中心とした30名越えの受講者を得ており、資料に対する地域住民の理解を深める一助となっている。解読したテキストはデータとして蓄積し、当該文化財の閲覧希望があった場合に活用している。

また、「我が国の科学技術黎明期資料の大系に関する調査・研究」(略称「江戸のモノづくり」平成13（2001）～16年 科学研究費助成事業)を契機に、平成14年から専門家の協力を得て、「長崎方控」・「當用控」の解読を進めてきた。「長崎方控」4冊は、天保9（1838）年から文久2（1862）年の長崎貿易の注文書控であり武雄鍋島家からの多数の注文品・到来品が記載され、蘭書をはじめ同家が入手した品目が通覧される貴重な資料である。「當用控」9冊は弘化2（1845）～嘉永6（1853）年に書かれたもので、「長崎方控」と内容が類似し、多くの品物の注文が記載されている。ただし、鍋島茂義の近親者の名前が多く登場するため、「長崎方控」よりいっそう私的な性格が強い資料ということがいえる。いずれの資料も、武雄領での蘭学・洋学撰取の流れを見るうえで重要である。

この解読作業と連動して、平成16年に「蘭学の来た道」と題した高校生向けと一般向けのシンポジウムを武雄で開催し、洋学史学会例会、特別企画展「蘭学の来た道」も同時期に開催した。

平成30年度に、明治維新150年の記念事業の1つとして、この2つの資料に解説を加えた翻刻本として刊行し、研究機関に配布した。

歴史資料館のホームページには、過去の企画展での主な展示資料の紹介、「武雄鍋島家洋学関係資料」の紹介、「ふるさとの先人たち」、所蔵絵図の一部の閲覧システムなどを掲載している。また「武雄の蘭学」について、英語で紹介するページを設けている。

ただし、現在のホームページは武雄市役所のサーバーに設置していることから市の担当者に依頼しなければ更新作業ができず、迅速なアップロードなどに制約がある。また利用者からみて利便性や魅力に欠ける点は否めない。

「長崎方控」刊行の意義について

鳥井裕美子

武雄鍋島家資料の核は、蘭書群と多彩な蘭学資料で、そのうちの2,224点が2014年8月に国の重要文化財として一括指定されたのだが、「長崎方控」は、武雄の蘭学（洋学）導入の経緯・資料収集過程をたどることのできる貴重な資料である。本来5分冊であったはずの初冊は残念ながら行方不明だが、二～五の4冊（1838年から1862年まで。領主鍋島茂義の活動期）にも膨大な情報が詰まっており、随分以前から研究者の注目の的となっていた。

武雄市出身の故中村質氏（九州大学）を中心とした武雄鍋島家の文書と歴史資料の調査（1978～）及び目録刊行（～1988）、そして鍋島茂義の側近木村仲兵衛を先祖に持つ故今泉信彦氏の解読作業着手は重要である。また洋学史分野では、西南諸藩洋学史研究会編『西南諸藩の洋学－佐賀・鹿児島・萩藩を中心に－』（1985）が「長崎方控」を取り上げ、紹介した。その後、理化学・薬学・医学・植物・砲術・海外情報・嗜好品等々、多岐にわたる内容に興味を持った複数の研究者が資料を撮影したりしたが、大量のカタカナ語（大半はオランダ語、ラテン語・フランス語も）・横文字・記号を含む煩雑な文書ということもあり、全文の解読はなかなか進まなかった。

「長崎方控」翻刻作業が具体化するのには、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査・研究」（2001～2005）の一環で、「長崎方控研究会」が武雄で発足（2003）して以降である。15年の月日と紆余曲折を経て、ようやく『武雄鍋島家資料 長崎方控 當用控』が刊行されたのは2019年3月であった。およそ160年前の武雄の人々の鼓動が感じられ、蘭学の実態を知ることのできる大変貴重な資料で、未永く幅広い活用が望まれる。



『武雄鍋島家資料 長崎方控・當用控』翻刻本

(4) 教育活動

「第1章 計画策定の目的と期間」の「3 計画の位置付け」に記載したように「武雄市の教育」の基本方針においては、「地域のよさや伝統を生かした教育の推進」を挙げ、武雄市を誇りに思い、郷土を愛する気持ちを育てるために、地域の「人」「歴史」「産物」などについて、あらゆる機会を通じて学ぶことを積極的に推進し、これらを通じて地域の活性化・教育力の向上に努めることを謳っている。

歴史資料館では、要望に応じて、生涯学習施設や学校での学芸員などによる出前講座を実施している。図書館との複合施設であることから、日常的なレファレンスは図書館と一体で対応している。また、図書館との共同イベントの計画が可能であり、子ども司書講座に協力して歴史講座を実施するなどしている。さらに、図書館の司書に資料に関する理解を深めてもらうため、企画展に際しては、司書を対象とするギャラリートークを実施している。

子どもの頃からの働きかけが重要であることから、平成30(2018)年度には副読本として『すごい武雄～見たい！知りたい！学びたい！武雄の歴史～』を作成した。蘭学・洋学を中心に武雄の歴史を紹介した内容となっており、市内の小中学校に共用教材として配布した。令和2(2020)年度から、翌年度以降の活用の推進の参考とするためにアンケートを実施し、令和2年中に同副読本を教材とした学芸員による中学校への出前講座を1回行った。また令和3年度には学校教育課と連携し、企画展「武雄から世界へ」への市内全小学校の6年生の観覧・展示解説を実施した。

(5) 観光面での活用

武雄市図書館・歴史資料館はJR武雄温泉駅から徒歩圏内に立地し、平成25年度の改装で文化施設であると同時に観光スポットとして注目を集めている。館内にはインバウンド客などのニーズが高い無料Wi-Fiの環境も備わっている。

「武雄鍋島家洋学関係資料」については、これまで、企画展や歴史ウォーキングなどのイベントを通じて来館者や地域住民に紹介の機会を設けている。

令和2(2020)年度・3年度に実施されたJR九州ウォーキングでは、ルート上に武雄市図書館・歴史資料館を設定し、歴史スタンプラリー、関連記念品の贈呈などで「武雄鍋島家洋学関係資料」のプロモーションの機会をつくった。令和2年度は企画展を開催していない時期に実施されたことから写真資料などを元に作成した復元品(アームストロング砲)などの臨時展示を行った。令和3年度は企画展開催中であったことから企画展会場内に記念品配布所をおくことで企画展の観覧に結びつけることができた。

また、市内観光の周遊コースの1つ「武雄温泉



JR九州ウォーキング2020秋編
アームストロング砲(復元品)等の臨時展示風景



JR九州ウォーキング2021秋編
企画展示室内での記念品配布と観覧の様子

駅前観光ゴールデンルート」でも武雄市図書館・歴史資料館は国の重要文化財である武雄温泉新館及び楼門などと共に主要スポットの1つに位置付けられている。平成31年3月にはルート上に武雄の蘭学導入の立役者である鍋島茂義のモニュメントを設置し、モニュメントを周遊ポイントの1つにすることで、館外で武雄の蘭学を紹介する機会を増やすなど、地域の歴史と文化に触れることができる魅力的な観光素材として、歴史資源の活用を図っている。

さらに武雄市図書館・歴史資料館は、九州オルレの武雄コースにも組み込まれている。オルレは韓国・済州島から始まったもので、もともとは済州の言葉で「通りから家に通じる狭い路地」を意味する。今では、里山や集落をのんびり歩くトレッキングコースの名称として韓国国内で有名になった。第4章の「1. 施設の概要について (3) 施設周辺の環境」で述べたように、豊かな自然環境と歴史的景観に隣接している当館は、地域の自然や文化を五感で楽しみながら歩くコース上の見どころの1つとして紹介されている。

令和3年度に西日本広域観光連携文化財活用推進協議会が文化庁の多言語解説整備事業補助金を受けて実施した事業で「武雄鍋島家洋学関係資料」が事業対象となり、基本情報（鍋島家と洋学資料）、観光情報、海外インフルエンサーによる資料や館周辺の紹介動画（紹介資料は10点程度）、GPSと連動した「文化財巡りMAP」、アクセス情報を掲載したウェブページが令和4年3月に公開された。対応言語は、英語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字）韓国語・タイ語・ベトナム語・フランス語・ロシア語・スペイン語・ポルトガル語である。また、前述の「武雄温泉駅前観光ゴールデンルート」が掲載された「武雄まち歩きマップ」なども、多言語（英語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字）ほか）で作成、配布されている。

武雄市図書館・歴史資料館は、新型コロナウイルス感染症拡大前は韓国をはじめとした東アジアからの視察の申込が全国でもトップレベルであり、来館者に占めるインバウンド客も増加していた。しかしながら敷地内の案内表示などの多言語化は進んでおらず、企画展期間外には歴史資料館としての体験プログラムの提供がないなど、観光客への積極的な取り組みを行ってこなかった。

上記以外にも、関連部局や地域団体との情報共有や連携の不足など、課題がある。

○ 課題一覧表

第4章で提示した現状から課題を抽出して分類、再掲する。

課 題 一 覧	
○ 資料の整理・調査・公開に係る課題	
	<ul style="list-style-type: none">・資料の現状把握、管理台帳整備が不十分である。・資料の保存・活用を担う人材の確保ができていない。・マイクロフィルム、デジタル資料等の2次資料が不足している。・ホームページなど情報発信が有効に機能していない。
○ 資料の修理や保存環境の課題	
	<ul style="list-style-type: none">・洋書類、器物類、標本類に関する最適な修理方法が明確になっていない。・防災対策や防犯対策の対応マニュアルが未整備のものがある。・有害生物被害対策の問題（IPM 管理への完全移行が出来ていない）・同一建物内にカフェスペースがあり、環境上の配慮が必要である。
○ 市民や観光客を対象とする活用の課題	
	<ul style="list-style-type: none">・市民へ資料の価値や魅力を十分に伝えきれていない。・関連部局や地域団体との情報共有や連携が不足している。・学校教育や社会教育に対する積極的な働きかけが不十分である。・多言語化などインバウンド客への対応が不十分である。
○ 施設・設備の課題	
	<ul style="list-style-type: none">・常設の展示施設がない。・収蔵スペースの容量が不足している。・閲覧・調査のための専用スペース、トラックヤードなどバックヤードが不足している。・前室、風除室など機能面、構造上の問題がある。